

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	116健康を支える保健・医療の充実		
施策のねらい (めざす姿)	すべての市民が、生涯にわたって健康で明るく元気に暮らしています。		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	施策担当マネージャー	健康福祉部次長
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	マネージャー氏名	菅井 智美

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	予防接種や各種健診等に関する国の制度改正等に、迅速に対応するとともに、市独自の事業であるフッ化物洗口は、毎年、実施学年を1学年ずつ増加させ、6年生まで継続させる。	③改革・改善内容	若い世代から、自ら心身の健康に関心を持ち、ライフデザインを考えるきっかけとしてライフデザイン手帳配布事業を実施する。予防接種を始めとする国の制度改正等に、迅速に対応する。フッ化物洗口は、毎年、実施学年を1学年ずつ増加させ、平成29年度は4年生まで、平成30年度は5年生まで継続実施する。
②①に基づく取組み結果	B型肝炎ワクチン予防接種の開始、乳がん検診の検査内容の見直し等、国の制度改正等に迅速に対応した。フッ化物洗口は、毎年実施学年を1学年ずつ増加させ、平成28年度現在では小学校3年生までを継続実施した。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	健康に関する必要な情報を入手し、正しい知識を習得し、健康に良い生活習慣を身につけ、健康の保持・増進ができる。
②施策の概要	健康教育、健康相談、訪問等を行い、生活習慣病予防、食育推進、口腔の健康、こころの健康等、健康に関する必要な情報の普及啓発と健康づくりを推進する。また、関係機関と協働した妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を行う。妊婦健診、歯周疾患検診、がん検診等各種健(検)診や予防接種の実施により、疾病の予防や早期発見、早期治療を推進する。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化や都市化が進み、生活習慣病の増加が予測され、医療費の増大や介護保険利用者の増加が見込まれることから、生活習慣病予防及び健康づくりへの取組がますます重要となる。少子化、晩婚化・晩産化、核家族化、育児の孤立化等が見られ、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援が重要となる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27～28年度の施策の成果	新たな予防接種事業(B型肝炎)を開始。乳がん、子宮がん検診については、国のがん検診推進事業を実施し、乳がん検診の検査内容を見直し、30歳代は超音波検査、40歳以上はマンモグラフィ検査を隔年で実施する体制を整備した。平成26年度より開始した小学校でのフッ化物洗口事業を、平成27年度は2年生まで、平成28年度は3年生までを対象とし、毎年実施学年を1学年ずつ増加させ継続実施した。健康教育・相談等を通し市民の健康づくりへの取組が出来るよう啓発することができた。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	目標値(32年度)
	i	平均寿命(男)	歳	—	—	—	延伸
	ii	平均寿命(女)	歳	—	—	—	延伸
	iii	自分の健康に満足している率(市民健康意識調査)	%	—	—	—	55.0
③基本事業成果指標	iv	乳児死亡率(出生千対)	人	1.2	0	2.6	減少
	i	健康のため食事に気をつけている市民割合	%	—	—	—	80以上
	ii	運動習慣者の割合	%	—	—	—	維持
	iii	自分に合ったストレス解消法を持つ人の割合	%	—	—	—	維持
	iv	フッ化物洗口実施者数	人	2,939	3,769	4,635	7,000
	v	かかりつけ医の役割を知っている人の割合	%	—	—	—	増加
	vi	病院・一般診療・医療機関数	箇所	64	70	調査中	現状維持
	vii	市内への救急搬送割合	%	59.9	59.1	59.7	現状維持
	viii	予防接種率(BCG)	%	100.0	100.0	100.0	現状維持
ix	各種健(検)診の受診率(胃がん検診)	%	16.1	15.3	12.6	25.0	
④施策の事業費	平成27年度決算	平成28年度決算	市民一人あたり事業費(28年度決算)	平成29年度予算			
事業費(千円)	459,901	457,497	(単位:円)	4,191円	545,780		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	若い世代から、自ら心身の健康に関心を持ち、各事業等の意義を十分に理解してもらうことが必要である。予防接種を始めとする制度の改正が、頻繁にあり、急遽ということもあり、予算も含め、迅速な対応が必要である。高齢化や社会的状況により、受診希望者の増加が見込まれることによる検診実施体制をどうするか、精査検証しながら進める必要がある。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	新たな予防接種事業の開始、検診の検査内容の見直し等、国の制度改正等に迅速に対応した。フッ化物洗口は、毎年実施学年を1学年ずつ増加させ、平成28年度現在では小学校3年生までを継続実施した。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する事務事業	フッ化物洗口事業		
④上記方向性の説明	子どものむし歯予防は、若いうちから自ら心身の健康に関心を持ち、生活習慣病予防等健康の保持・増進につながるものであると共に、生涯自分の口から食べることが、今後の高齢化社会で健康寿命の延伸につながるため。		